

合格

## 1、私の目指す教会学校(就学児童)

現在小学校、中学校、高校で就学している子供たちは20年、30年後には実質的に日本の教会と社会を支えている中堅の人材である。しかし、いじめ、暴力、授業妨害、登校拒否、自殺、殺人、援助交際、フリーセックス、麻薬、オカルトといった就学児童の問題はどれも深刻なものである。また現在小学校では1年生の時から性教育を実施し、5年生で性交を教えている。しかし人格的なことはほとんど教えられていない。両親に虐待されたりして心の傷(トラウマ)を抱えている児童も少なくはない。

やはり人間を神によって創造された人格的存在として捉え、本当に人間として生きるための教育が出来るのはキリスト教会だけである。キリストの十字架と復活による関係の回復、いのちの回復、創られ、生かされている使命の回復がなければ、破れ果てた現実の問題に本当の解決はない。教会は、福音と呼ばれる人間を内側から新しく造り変えることのできる恵みを神から委ねられている。

教会学校のあり方を考える時、このような時代の中で生きていく子供たちに届くことばを得ることがどうしても必要である。また、1週間に1度1時間程度みことばに聞くだけの関係になりやすい中で、キャンプやスポーツを共に楽しむことや訪問も必要であると思う。家族の方の理解を得、共に協力して子供たちを育てて行く教会学校でありたい。

## 2、私の目指す求道者教育

聖書的背景のない日本人にとって、罪を本当の意味で自覚することは非常に時間のかかることであると思う。神を自分の幸せや成功のために利用するような信仰から、本当に神を愛する信仰へと成長するためには洗礼前の求道者教育だけではとても困難である。いやむしろイエスを心に迎え入れた後に少しずつ本当の意味で罪を自覚することが出来るのだと思う。導く側においては、実利主義的に目にみえる結果だけを性急に求められるプレッシャーの中で、求道者を洗礼に導くことを目的、ゴールとしてしまう危険がある。しかしインスタントな福音提示では結局安価な福音を提示することになり、受洗後数年で教会から離れてしまう人を生み出すことになる。

## 3、私の目指す成人教育

成人教育はいわばアフターバプテスマクラスと言ってもよいものだと思う。洗礼をゴールとするのではなく、まさにスタートラインに立つことであると受け止めるなら、受洗後の学びは洗礼前の学びよりも大切であるとさえ言えると思う。キリストにある成人になるために、キリストの身丈にまで共に成長するために成人教育は必要不可欠である。

## 4、教会学校教師の重要性

信仰の継承、信仰の子育ての必要は言うまでもない。

## 5、人が救いに至るために必要な知識は何か

未信者に福音提示をする際、進化論に対抗して創造論的な弁証をしてみたり、信じる根拠をたくさん提示して信仰に導こうとしてしまう危険がいつもある。しかしそこには人間の知恵に支えられた信仰を持つキリスト者を生み出す危険が落とし穴として口を開いている。ことばのたくみさで人を捕らえる危険がある。そしてそこには本当の慰めや支えになるいのちは存在しないと思う。パウロはコリントの教会に宛てた手紙の中に「さて兄弟たち。私があなたがたのところへ行ったとき、私は、すぐれたことば、すぐれた知恵を用いて、神のあかしを宣べ伝えることはしませんでした。なぜなら私は、あなたがたの間で、イエス・キリスト、すなわち十字架につけられた方のほかに、何も知らないことに決心したからです。あなたがたといっしょにいたときの私は、弱く、恐れおののいていました。そして、私のことばと私の宣教とは、説得力のある知恵のことばによって行なわれたものではなく、御霊と御力の現われでした。それは、あなたがたの持つ信仰が、人間の知恵にささえられず、神の力にささえられるためでした。(コリント人への手紙第一 2:1-5)」と記している。

また、神が存在することを信じていても、つまり頭で知っていてもそれだけでは救われない。「あ

あなたは、神はおひとりだと信じています。りっぱなことです。ですが、悪霊どももそう信じて、身震いしています。」とヤコブの手紙 2:19 にあるように悪魔や悪霊でさえも唯一人の神がおられることを知っているのであるが、彼らが救われないことは確かである。私の存在が変えられ続けなければわかったことにならない。生けるキリストを語らなければいくら信じる根拠となる事実を語ったり証明しても伝道したことにはならない。→説得を控える必要＝説教者の禁欲。健やかさは祈りから。

キリストは宣教のことば(ケリュグマ)において我々に出会われる。宣教のことば(ケリュグマ)が史実であること(キリストが私たちのために死なれたこと、三日目によみがえられたこと…)を信じること(単なる知識として知るのではなく、信頼を移すこと)が救われるために必要なことである。

「兄弟たち。私は今、あなたがたに福音を知らせましょう。これは、私があなたがたに宣べ伝えたもので、あなたがたが受け入れ、また、それによって立っている福音です。また、もしあなたがたがよく考えもしないで信じたのでないなら、私の宣べ伝えたこの福音のことばをしっかりと保っていれば、この福音によって救われるのです。

私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。

キリストは、聖書の示すとおり、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと、また、ケパに現われ、それから十二弟子に現われたことです。

その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現われました。」

1コリント15:1-6

原ニカヤ信条(325年)

われらは、唯一の神、全能の父にして、

見えるものと見えざるものすべての創造者を、信ず。

われらは、唯一の主イエス・キリストを、信ず。

主は、父から生まれた神の独り子にして、父の本質より生れ、

神からの神、光からの光、真の神からの真の神、造られずして生れ、

父と同一本質であって、天地の万物はすべて主によって創造された。

主は、われら人類のためまたわれらの救いのために下り、

そして肉体を受け、人となり、苦しみを受け、三日目に甦り、

天に昇り、生者と死者とを裁くために来り給う。

またわれらは、聖霊を、信ず。

それゆえ、主に存在しない時があり、生まれない前はおられず、

また存在し得ぬものより生れ、

神の子は、異なる本質或いは異なる実体より成り、造られ、

変化しうる者である、と宣べる者らを、

公同なる教会は、呪詛排斥する。

磯辺理一郎篇「わたくしたちの信条集」ナザレ企画 1994より

以下に示す福音提示をフレームワークとして教会学校教育、求道者教育、成人教育を行なうことを考えています。

## 福音提示アウトライン

### A、神とは

神ということばを聞いた時のあなたのイメージ？

聖書の神は共に喜び、共に苦しんで下さるあわれみ深い神

あわれみ深い愛のお方であると同時に義(聖)であり、罪を見逃すことが出来ないお方

**創造→墮落→再創造**

唯一人の全宇宙の創造主(目的、永遠のいのち)。

人間を造られた神。(人間が造った神ではない！)

父なる神、子なるイエス・キリスト、聖霊なる神…三位一体(関係)の神

### B、人間とは

あなたのイメージ(機械？動物？性的存在？社会的存在？コンピューター？)

**創造→墮落→再創造**—創世記1～2章より

全宇宙を創造され、最後に人間を創造された。

人間は神のかたちに創造されたスペシャルな存在。

**神のかたちの三つの側面**

関係概念:神との交わりに生きる

目的概念:神からの委託、代理人としての目的、使命に生きる

実体(いのち)概念:神の霊の命、永遠のいのちに生きる

**創造→墮落→再創造**—創世記3章から

すべての人は罪を犯し、その結果神のかたちが失われた。

罪とは?:善悪の知識の木の実を食べたこと。

神を神とせず、自分の基準に従い、自分を神として生きること。

神の栄光を奪い取り、自分に栄光を帰すこと。

殺神→殺人

**墮落した人間の悲惨**

関係の断絶→信頼の喪失(ことばのむなしさ)、孤独、山嵐のジレンマ、家庭の崩壊

目的・価値の喪失→むなしさ、虚無、お金や欲望の奴隷

(目的の歪曲:食べるために働き、死んでいく)

いのちの喪失→腐敗、死、滅び

(死は罪から来る報酬である:罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、

私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。ローマ人への手紙 6:23)

### C、救いとは

あなたのイメージ？

聖書の救い

**創造→墮落→再創造**=イエス・キリストによる失われた神のかたちの回復(所与と課題)

再創造は内から外への方向性を持っている。

まわりの環境や人からではなく、先ずその人を変えられる。

先ず人間を内側から新しく創造し、そしてその人を祝福の基、砂漠のなかのオアシスとして

全宇宙を再創造される。エデンの園から都(新しい天と地、新しいエルサレム)へ

**ルカ15章の3つのたとえ(羊、銀貨、息子)に見る救いの3つの側面**

永遠のいのちの回復: 新生、聖め→あなたの隣人を愛しなさい。キリストのように  
存在目的、使命の回復: あがない(解放)、

召命→自分の十字架を負い、ついて来なさい。キリストのために

関係の回復: 和解、義認、神の子どもとされる特権→神の国とその義とを求め続けなさい。

キリストにあつて。神と人、人と人、人と自然(宇宙)

信仰義認・恵みによって、信仰のみ

信仰に始まって、信仰によって歩み、信仰によって完成する救いの御業

**D、イエス・キリスト(イエスは救い主)とは**

初めに、ことば(イエス・キリスト)があつた。ことばは神とともにあつた。ことばは神であつた。  
この方は、初めに神とともにおられた。すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、  
この方によらずにできたものは一つもない。ヨハネの福音書 1:1-3

天地万物を創造され、動かしておられる神であり、(インマヌエル:いつも共にいてくださるお方)  
私たちと同じ肉体を持った人となられ、私たちのあいだに住まれ、痛みや悲しみ、苦しみを味わ  
って下さったお方。

飼ひ葉桶の中に赤ちゃんとして来られたお方。

枕する所もないほどに失われた人を探して救うために出て行かれたお方。

罪を犯されなかったのに、私たちの罪を背負って身代わりに十字架にかかって死んでくださ  
り、罪の代価(負債)をすべて払ってくださったお方。

三日目によみがえられ、今も生きておられる救い主。

今は神の右の座について私たちのためにとりなしをしてくださっているお方。

もう一度この世に来られ、裁きを行い、新しい天と地を創造されるお方。

先在、受肉(クリスマス)、生き様、十字架、復活(イースター)、昇天、再臨

関係: 神の子(仲保者)

目的: メシア(解放者)

いのち: 第二のアダム

**E、聖霊とは**

もう一人の助け主。神であり人格を持ったお方。神を求めさせ、罪を示し、悔い改めへと導き、  
救いの中に入れてくださるお方。私たちの内側でいいようもないうめきによって私たちのためにと  
りなしていただくお方。律法を全うする(神と隣人への愛に生きる)ことができるように助けてくだ  
さるお方。

**所与と課題の聖霊論的パースペクティヴ**

関係概念: 証印(契約のはんこ)→御霊に満たされ続けなさい

目的概念: 保証(頭金)→御霊の賜物(複数)を用いて互いに仕え合いなさい

実体(いのちの)概念: 内住→御霊の実(愛: 単数)を結びなさい

**F、教会生活**

教会とは: 召し出された者たち一人一人によって構成される共同体(エクレシア)、

キリストの体、神の宮

聖礼典(バプテスマ、聖餐)について: 目にみえるキリストの臨在を告げ知らせることば  
神の国(民)のライフスタイル: 十戒、山上の説教、福音と律法(御霊による律法の成就)

祝福の基としての使命。大宣教命令のライフスタイル。

聖書の読み方: 祈って文脈で読むこと。ジャンルを考えて読む。黙想=聞く祈り。

祈り: 主の祈り

礼拝とは

交わり:共に生きる生活

証し・伝道・宣教

G、終末の時代を生きる

Not yet, but already. (すでにといまだの狭間の今を生きる)

キリストの再臨を待ち望む毎日

いつ召されるかわからない、また世の終わりは盗人のように来る。

しかし浮き足立つことなく、その日その日を精いっぱい生きる。

「あした世の終わりが来るとしても今日私はりんごの樹を植える。」—マルティン・ルターの心構え

救いの完成

関係概念:神との直接的交わり

実体(いのちの)概念:霊の体によるよみがえり

目的概念:神の国の相続